

# 万葉集の読み方

1. 万葉集の時代には、平仮名がありませんでした。そこで、漢字の音訓を使って、まるで平仮名のように表記していました。
2. 短歌とともに、「長歌」という形式でよまれた歌があります。これは「五・七」を三度以上繰り返して、おしまいに「七」または「七七」をつけたものです。
3. 長歌の後にはその歌のまとめとして、短歌をよみそえることがありました。これを「反歌」といいます。

余能奈可波 牟奈之伎母乃等 志流等伎子 伊与余麻須万須 加奈之可利家理	よのなかは むなしきものと しるときし いよよますます かなしかりけり	世間は 空しきものと 知る時し いよよますます 悲しかりけり
伊毛何美斯 阿布知乃波那波 知利奴倍斯 和何那久那美多 伊摩陀飛那久尔	いもがみし あふちのはなは ちりぬべし わがなくなみた いまだひなくに	妹が見し 棟の花は 散りぬべし 我が泣く涙 未だ干なくに
宇利波米婆 胡藤母意母保由 久利波米婆 麻斯提斯農波由 伊豆久欲利 枳多利斯物能曾 麻奈迦比尔 母等奈可利提 夜周伊斯奈佐農	うりはめば こどもおもほゆ くりはめば ましてしぬはゆ いづくより きたりしものぞ まなかひに もとなかかりて やすいしなさぬ	瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば 況して偲はゆ 何処より 来りしものぞ まなかひに もとなかかりて 安寐し寝なさぬ
反歌 銀母 金母玉母 奈尔世武尔 麻佐礼留多可良 古尔斯迦米夜母	しろかねも くがねもたまも なにせむに まされるたから こにしかめやも	銀も 金も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも
和可由都流 麻都良能可波能 可波奈美能 奈美邇之母波婆 和礼故飛米夜母	わかゆつる まつらのかはの かはなみの なみにしもはば われこひめやも	若鮎釣る 松浦の川の 川なみの 並にし思はば 我れ恋ひめやも